

事業報告

令和元年度 一般社団法人さいたまスポーツコミッション事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

さいたま市及び周辺地域にあるスポーツ資源や特徴ある観光資源を最大限活用し、各種競技大会等スポーツ関連イベントの積極的な誘致等の事業を通じて、地域のスポーツ機会を創出することにより、地域スポーツの振興と地域経済の活性化を図ることを目的とする。

(2) 概況

① 設立年月日 平成30年12月10日

② 基金 1億450万円

③ 実施事業

ア スポーツイベント等の誘致に関する事業

イ スポーツイベント等の運営支援に関する事業

ウ スポーツイベント等の実施に関する事業

エ スポーツ施設等の管理運営に関する事業

オ スポーツビジネスの創出に関する事業

カ 前各号の事業のほか、当法人の目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の人数（令和2年3月31日現在）

会長 1人

副会長（※） 1人

常務理事 1人

理事 2人

監事 1人

※ 専務理事を兼任

(2) 令和2年3月31日現在の理事・監事

役職	氏名	就任年月日
会長（代表理事）	池田 純	平成31年3月15日
副会長（兼専務理事）	遠藤 秀一	平成30年12月14日
常務理事	本田 秋満	平成31年3月15日
理事	北 清治	平成30年12月10日
理事	川村 恵一郎	令和2年3月30日
監事	河合 あゆみ	平成30年12月10日

3 理事会及び総会の開催

(1) 理事会

開催日時	議決事項等
令和元年6月18日 (第1回理事会)	(議題) 議案第1号 平成30年度事業報告について 議案第2号 平成30年度決算報告について 議案第3号 諸規則の制定について 議案第4号 基金募集事項の決定について 議案第5号 社員総会の開催について
令和元年9月20日 (理事会決議事項の提案)	(議題) 議案第6号 基金募集事項の決定について
令和元年10月1日 (第2回理事会)	(議題) 報告事項 職務執行状況の報告について
令和元年10月17日 (第3回理事会)	(議題) 報告事項 職務執行状況の報告について
令和2年3月23日 (理事会決議事項の提案)	(議題) 議案第7号 令和2年度事業計画について 議案第8号 令和2年度収支予算について

(2) 社員総会

開催日時	議決事項等
令和元年6月18日 (第1回総会)	(議題) 報告事項 平成30年度事業報告について 議案第1号 平成30年度決算報告について
令和2年3月23日 (総会決議事項の提案)	(議題) 議案第2号 役員(理事)の選任について

4 職員の状況

令和2年3月31日現在の職員

- ① プロパー職員 1名
- ② 契約職員 3名
- ③ 嘱託職員 1名
- ④ 市派遣職員 8名
- ⑤ さいたま観光国際協会派遣職員 3名
- ⑥ 企業出向職員 1名
- ⑦ 派遣会社派遣職員 1名
- ⑧ 臨時職員 2名

5 事業の実施状況等

1 スポーツイベント誘致・支援事業

(1) スポーツイベント誘致活動

各種スポーツ競技団体等に対して誘致セールスを行った。

<令和2年度開催予定大会数> 37大会 ※令和2年3月31日現在

(2) スポーツイベント支援活動

スポーツイベント開催助成金制度による財政支援、広報・PR、各種資料・情報提供、飲食物販売所の設置、行政機関への調整等、主催者の要望に応じた各種運営支援を実施した。

<令和元年度支援大会数> 45大会 ※支援した大会のうち、台風19号の影響により2件中止、新型コロナウイルス感染症の影響により7件中止

(3) スポーツ合宿誘致活動

多言語ホームページによるトレーニングキャンプ実施可能施設の情報発信並びに「さいたまスポーツシュール」との連携により、トレーニングキャンプ及びスポーツ合宿のセールス活動を展開した。

(4) プロモーション活動

スポーツイベントの誘致、スポーツツーリズムの促進並びに関係団体との交流拡大等を図るため、国内外においてプロモーション活動を展開した。

① スポーツアコードコンベンション 2019

期 間：令和元年5月7日（火）～9日（木）

会 場：オーストラリア連邦 クイーンズランド州 ゴールドコースト市
ゴールドコーストコンベンション&エキシビジョンセンター

主 催：スポーツアコードコンベンション実行委員会

内 容：国際スポーツイベントの情報収集及び大会誘致セールス

② スポルテック 2019 第6回スポーツイベントサービス EXPO

期 間：令和元年5月22日（水）～24日（金）

会 場：東京ビックサイト 西ホール

主 催：スポルテック実行委員会

共 催：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構

内 容：国内スポーツイベントの情報収集及びSフィールドPR

③ 第29回台湾国際快樂健行（台湾国際ツデーマーチ）

期 間：令和元年11月9日（土）・10日（日）

会 場：台湾 台北市 泰北高中

主 催：中華民国山岳協会

内 容：さいたまマーチ参加者募集PR（インバウンド）

④ スポーツビジネスジャパン 2019 together with スタジアム&アリーナ 2019

期 間：令和元年11月19日（火）・20日（水）

会 場：さいたまスーパーアリーナ

主 催：日本スポーツ産業学会、株式会社コングレ、株式会社スペースメディアジャパン

内 容：国内スポーツイベントの情報収集及びSフィールドPR

⑤ 東京スカイツリー(R)「Beautiful NIPPON」全国観光PRコーナー

期 間：令和2年1月18日（金）～24日（木）

会 場：東京スカイツリー5F 出口フロア

主 催：東京スカイツリー(R) I LOVE ニッポンプロジェクト

内 容：さいたまマーチ参加者募集 PR

(5) 経済波及効果調査活動

スポーツイベント開催助成金を支出したイベントを中心に消費額アンケート調査による個別基礎調査を実施するとともに、大学機関と連携してスポーツイベントにおける経済効果額を推計した。

<平成30年度経済効果推計額（平成30年4月～平成31年3月）> 約67.8億円

(6) 情報収集活動

①一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）との連携

スポーツツーリズムを推進する役割を担った全国的なネットワークを構築する同機構と連携を図りながら、各種スポーツイベント情報を収集した。

②日本スポーツマネジメント学会（JASM）との連携

スポーツマネジメント研究を行う同学会員と連携を図りながら、スポーツ業界関係者との情報交換を行った。

③ロッテルダムトップスポーツ（Rotterdam Topsport）との連携

ロッテルダムトップスポーツ（オランダ・ロッテルダム市）との提携を継続し、国際スポーツイベント及び海外競技団体のトレーニングキャンプ誘致に向けた情報収集を行った。

④プライドリームス埼玉運営（PDS）との連携

埼玉県内トップスポーツチームとの交流及び連携を図るため、同団体の運営補助等を行った。

2 スポーツイベント開催助成事業

スポーツイベントの誘致及び開催の推進を図るため、スポーツイベント開催助成金交付制度を活用し、19件（総額12,811,000円）を助成した。

3 ウォーキングイベント開催事業

新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、大会を中止した。

4 スポーツ施設運営事業

大宮けんぼグラウンドSフィールド（野球場8面・テニスコート10面）の管理運営及びイベント利用のセールス活動（視察受入等）を行った。なお、台風19号の影響により、令和元年10月12日から11月30日まで（野球場については、12月31日まで）の間、利用を休止した。

<貸出実績>

野球場1,512件（60,480人）／テニスコート3,239件（32,390人）／合計4,751件（92,870人）

5 さいたまクリテリウム開催事業

次のとおり、「J:COM presents 2019 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」を開催した。

期 日：2019年10月27日（日）

会 場：さいたま新都心駅周辺

内 容：クリテリウムレース（海外招聘選手、国内選手によるレース）、タイムトライアルレース、スプリントレース等

主 催：一般社団法人さいたまスポーツコミッション

共 催：埼玉県、さいたま市、公益社団法人さいたま観光国際協会、A. S. O. (Amaury Sport Organisation)

特別協力：2019さいたまクリテリウム推進委員会

競技主管：公益財団法人日本自転車競技連盟

後援：経済産業省、観光庁、スポーツ庁、自転車活用推進本部、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構

プレゼンティングスポンサー：株式会社ジュピターテレコム(J:COM)

オフィシャルメディアパートナー：朝日新聞社、読売新聞東京本社

来場者数：さいたま新都心駅周辺 約10.6万人 (10/27)

さいたまるしえ 約8.5万人 (10/26 約2.3万人 10/27 約6.2万人)

サイクルフェスタ 約2.1万人 (10/26 約3千人 10/27 約1.8万人)

協賛企業：63社

経済波及効果：約25億2,500万円 ※「平成27年産業連関表108部門」による算出（全国）

6 スポーツシュール事業

(1) 女子サッカー等活性化受託事業

さいたま市から委託を受け、競技人口が極端に減る中学生年代の女子サッカーを支援するため、サッカーを行う女子中学生の活動の場所等を確保するとともに、競技技術の向上、栄養管理等を図る取組である「スマイルプロジェクト」等を行った。

<実績>

スマイルプロジェクト実施回数：9回、参加人数：延べ259人

(2) その他

スポーツアフタースクールなど、スポーツビジネス創出事業に係る調査・研究等を行った。